

高野山会議2024 (セッション6)

日時: 2024年7月13日(土) 9:00~11:30

Why war?: ひととはなぜ戦争をするのか?

1932年、国際連盟はアインシュタインに、「最も重要だと思われる事柄について、最も相応しい相手と往復書簡を交わして欲しい」と依頼しました。アインシュタインからのテーマは“Why war?”。選ばれた相手はフロイトでした。この年は、シェリントンが脳と神経でノーベル賞を受けた年でもあります。時は、1939年から始まった第Ⅱ次世界大戦の少し前、暗雲が立ち込め始めた時期と重なります。アインシュタインとフロイトは、それぞれのその時代の知識の要を駆使して、真剣にこの重要課題に挑みました。この流れは、核兵器の開発／廃絶に向けて、アインシュタインの署名のあるルーズベルト大統領への書簡(1939年)、その後のラッセル・アインシュタイン宣言(1955年)へと繋がって行きます。

往復書簡からの100年へ向けて、もう一度、最新の知識のもとに、“Why war?”を再考・熟慮する必要があるのではないのでしょうか? 東京大学の自然科学・人文科学・社会科学の三附置研究所の現職所長を交えて、分野を超えた議論が展開されます。そこには現生人類の位置付けをネアンデルタールの化石遺伝子から明らかにして2022年ノーベル賞となったペーボ研究室関係者や宗教学者、戦争体験者も加わります。

喫緊の課題“Why war?”へ、高野山上から世界に向けたキックオフが始まります。

プログラム(敬称略)

第1部

09:00-09:15 挨拶と趣旨

東京大学 先端研 所長 杉山 正和 <工学>

09:15-09:40 往復書簡“Why war?”の背景

東京大学 先端研 フェロー 小泉 英明 <物理学・脳神経科学>

09:40-10:05 往復書簡の現代的意味

東京大学 東洋文化研究所 所長 中島 隆博 <哲学・思想>

10:05-10:20 Intermezzo 休憩

ミュージカル『フロイト・アドラー・ユング』(ガーシュイン兄弟共同作品、1933年)

第Ⅱ次世界大戦前夜のウイーン



10:20-11:30 Trans-disciplinary (TD) トーク

モデレーター 杉山正和

Trans-disciplinary (TD) とは、サイロ化された学術分野を超えて、産官学民の境を超えて、さらに基礎から応用への境を超えて共創し、社会実装可能な創発(Emergence)を目指すことです。

今回は、既成の分野の枠組みを超えて、第一部の工学、物理学、脳神経科学、哲学分野だけでなく、第2部では、政治思想史、生物人類学、宗教学、報道、芸術の視座を加えて、グローバルな時空を俯瞰した議論を展開します。

現代の“Why war?”の次に、アカデミアやアカデミーが中心になって、それでは今、何をすべきかを討議します。

近作映画『オープンハイマー』も、映像芸術の世界からこの問題を投げかけています。



宇野重規

東京大学 社会科学研究所 所長
＜政治思想史＞



太田博樹

東京大学 理学系研究科 教授
＜ゲノム人類学＞



池内 恵

東京大学 先端研 教授＜宗教思想＞



国末憲人

東京大学 先端研 特任教授
＜報道＞

【高野山会議】 下記URLに詳細情報があります。

<https://www.aad.rcast.u-tokyo.ac.jp/koyasan/>



【お問い合わせ先】

東京大学先端科学技術研究センター 先端アートデザイン分野

Email : secretary@aad.rcast.u-tokyo.ac.jp

主催：東京大学先端科学技術研究センター

主管：東京大学 先端科学技術研究センター 先端アートデザイン分野

共催：高野山金剛峯寺 / 高野山大学 他